

様式(細則 5-2)

平成27年 2月 2日

浜田市議会議長
原田 義則 様

議員名 佐々木 豊治



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成27年 1月28日(水) 9:30~15:30

2. 研修内容

調査研究事項

公共施設マネジメント集中講座

内容 ①失敗しない公共施設マネジメント

②拡充から縮充へ 機能ベースの施設再編

成

主催

地方議員研究会(大阪市北区)

講師 南学東洋大学客員教授

3. 研修先

広島市南区金屋町 「ワークピア広島」

4. 調査経費

36,420 円

経費内訳

セミナー受講料(2講座) 30,000円、振込料1,080円

高速バス往復運賃5,340円

5. 調査研究活動の概要

別紙



全国的に、市民の安全安心の観点や財政面などにより、老朽化していく公共施設のマネジメントをどのように行うのかが、自治体の大きな課題とされております。浜田市においても施設の再配置計画が今年度策定される予定となっており、今後実施計画を作るとされているが、全国他市の事例では、どの自治体でもその段階で市民の総論賛成各論反対の雨嵐により、実施できない現状にあり、その間、老朽化はますます進行していく状況にあるようです。今回、実施に向けた手法を学び、何とか当市ではそのような状況にならないよう、執行部に提言すべく学ぶものであります。

「失敗しない公共施設マネジメント」

- ・施設の更新問題についてまともに扱えるコンサルタントはごくわずか。
- ・白書から計画策定までに4年かかる。その間に老朽化は進むため、あまり精緻な計画策定に力を入れると失敗する。計画を立て、実行するのは20世紀型。現状把握・計画・実践は成り立たない
- ・公共施設マネジメントの最大の課題は面積の圧縮。全国平均は3割の圧縮だが半分以下もある。浜田市のように4つ5つが合併して人口5～6万の自治体が一番大変。
- ・学校の地域解放は皆無。セキュリティーの問題で大阪の池田小学校在る。学校は空き教室は無いというのが余裕教室はあるという。
- ・マネジメントにはデータベースとなる固定資産台帳の作成が必要である。白書を作成しても計画はできない。各論反対で計画ができないまま数年間がたつ。どれを優先的に取組むか、データが無いと計画ができない。間違いだらけの白書・計画・実践。7年前は白書作成で計画策定が正しかったがその先が進まない。縮小しなければならいので合意形成が非常に難しい。自分の施設は守りたい。習志野は、市民への意見を聞きすぎ3年たつがまだ設計ができない。
- ・設備を含めたデータベースがきちんとできているか聞くだけで理事者側は揺らぐ。優先度を判定するのはデータベースが必要。お金を節約する一番のプランをたてる。声が大きいからとかではない。
- ・地方財政の時限爆弾。建物が倒れる時限爆弾。管理している公務員が業務上過失致死傷罪で刑事罰を受ける。ふじみ野市のプール事件では担当の課長が1年半、係長が1年の禁固刑に。懲戒免職で失職。

・財源がないから面積を圧縮しなければならない。業務委託すると人件費が浮く。公共施設マネジメントの方程式は財源確保が一番簡単なのは総面積の圧縮だが合意形成が困難。

・受益者負担の確保での横須賀の事例。敬老会館700平米、60歳以上が自由に使える。利用登録者200人、人口は40万人、60歳以上21万人、6か所全体で900人、全体の0.1%。一人当たりの経費が年間25万円、1人月2万円払っている状況。リーダー育成ならまだわかるが、特殊なサービスを受けにくるだけの人に2万円あげていいのか。

財源確保に本気で取り組んでいる自治体は少ない。

・秦野市では庁舎の駐車場のコンビニを誘致。

・流山は50施設の保守点検を委託した。「安全管理をできること」の性能発注。業者に業務計画書を提出させる。年間4千万浮く。

・先進自治体は財源に注目している。そうでないところは面積圧縮に注目している。

・財源確保は国に頼れない。

・施設の縮小は今までにやったことがない。藤沢市、習志野市
これからの発想は走りながら考える。前進したり後退したり。

・総合管理計画ではインフラの長寿命計画は国の各省庁が策定するし地方も個別に計画をたてるとされているが、誰が責任を持ってやるのかわからない。総務省は国土交通省のインフラ策定に対抗するために行うものではないか。アンケートで解体したいが財源がないため解体できない現実が多くあることから、除却債をだせるようにした。

・とても3年間でできないような内容になっている。この計画に力を入れているとまた3~4年は何もできない。精緻な計画はだめでマニュアルのようなものが良い。40年をにらんで面積圧縮をする計画は必要である。

計画は立てても具体的な実践計画は立てない。

・公会計改革を公共施設マネジメントに具体的に応用している自治体に町田市がある。データをもとにして計画策定は日本で最先端である。「施設分類別資産老朽化比率」期末仕分けが良い。

施設の年数ごとの面積に設備を入れている。設備は15年で残存価格が0になる。建物は3分の1。足すと70%に価値が上がる。一番最適な時期に更新する。全体老朽化比率を20%で行う。白書で全部の施設を

調べて作るのに4年かかるが、実施の担保は何もない。固定資産台帳は半年でできる。計画は30年から40年のものを大まかに作る。町田市は発生主義複式簿記導入に8年かかったが、事業別財務諸表を作った。それにより議会からの資料要求が8割減った。施設のマネジメントを進めている。

・役所の職員も予算書や決算書は見ない。事業別予算書のみている。予算議決は予算書を議決したわけで、事業別予算書を議決したわけではない。貸借対照表で資産が、行政コスト計算書で人件費（給与費ではなく）の本来の額もわかる。一律何%削減がなくなる。課の判断でできるようになる。これが固定資産台帳を中心とした公会計改革の成果。

固定資産台帳で正確な老朽化比率をだす。設備の原価償却を組み込むことにより、どのタイミングで更新したら良いか、一番投資効率の良い時期がでる。税法上の建物の原価償却は50年だがメンテナンスにもよる。優先順位が判定できる。個別の事業別財務諸表を作ることにより、各課ごとに独自の計画ができるようになる。複式簿記を導入すると単なる削減ではなくなる。合理的な投資計画やメンテナンス計画、運営計画がたてられるようになる。

頭の切り替え作業に数年かかる。資産がわかるようになってやっと経営になる。

・公共施設マネジメントは大行政改革の1歩。従来型の計画は役に立たない。縮小計画だから。しかも5年先や10年先は誰も見通せないから。現実には3年間ぐらい。

縮小しながら充実させるから「縮充」。施設は現在1割の人しか使っていないから3割が使えば充実する。公民連携で短期計画。

・公共施設マネジメントは面積の縮小だけではなく財源問題でとらえる。その場合公会計改革で、資産把握をすると経営的な民間手法が使えるようになるし、民間参入が可能になり、市民の理解も得やすい。

「機能ベースへの施設再編成」

・学校施設をどう使うかが施設の統廃合の鍵になる。稼働率は16%（現実には10%）。

・武雄市の図書館は午前9時からとなり、視察は前泊しなければならなくなつた武雄温泉が復活。蔦屋がきたから成功したのではなくて蔦屋がくるくらいのおしゃれな図書館だった。スターバックスもきて年間100万人も入るようになった。

・閉講図書も開講した。図書館の改築に4億円かけた。蔦屋は宣伝や内装に3億円かけた。年間6千万の投資をしており、指定管理で安いわけではないし、図書館としては中途半端で不十分で人口5万人で20万冊の図書しかない。しかしおしゃれで人が集まる施設になり、年間100万人あつまる。

売り物の雑誌は600種類ある。コーヒーを飲みながら雑誌が自由に読める。セルフカウンターで自分で手続きをしている。スターバックスは全国4位。子どもの読み聞かせは穴倉が一番良い。iPadで独自の検索装置を導入している。家族がコーヒーを飲みながら雑誌で懇談している。

・武雄の図書館は図書を媒体にした交流の場になっている。よって批判する人も多い。月曜日に困っている。図書館原理主義者がくる。図書館は無料で静かではなくてはいけない。民間に委託をしてはいけないなど凝り固まった人たち。全国の原理主義者が殺到する。

図書館の近くにマンションが3塔でき、人口も増えた。

都会的な雰囲気をも田舎に持ち込んで、全国区にした。

・隣の伊万里図書館も特徴がある。町の人が本を借りなくても集まるようになった。公民館と図書館が合体した施設となった。

・図書館はどれだけ人が集まってくるかが鍵。複合館がはやっている。

・武蔵野(14万人)図書館。年間140万人くるおしゃれな空間。4Fには予約できる学習の部屋がある。1時間100円。図書館法17条に無料の原則があるが、無料だといっているのは入館料と資料の提供で、席の提供を無料にしないとは書いてない。無料コーヒーも書いてない。日本だけ。原理主義による。レストランもあり、ビールも出てくる。地下には青少年センターもあり、一番人気は音楽の練習。パフォーマンススタジオで鏡をまえに踊っている。若者に聞けば自然とこういうものができる。

・山形県西川町、小学校8つを1つにした。270人。4分の1のスペースを5万冊の図書館にした。100台分のアスファルトの駐車場を作った。集会スペースも作った。図書館をつくるとなると補助金が入らな

いが学校なら入る。

- ・図書館には複数の機能がある。貸し出し、読み聞かせ、暇つぶし、調査研究、交流、自習。中学・高校生は学習にきて本は借りない。松坂では周辺施設と一体整備とした。学習室は別の施設を。機能を分散もある。

- ・札幌では貸し出し機能を大通り公園（大通りカウンター）に持っていた。返却も予約もできるようにした。中央図書館は閑散としている。

- ・図書館は40万冊以下の図書館は役にたたない。1回も貸し出しされない図書もある。子育て交流の場所にもなる。

海外では静かに本を読むのが例外になっている。

- ・図書館は複合的な施設にした方が使い勝手が良い。

- ・学校体育館が避難所として必要な設備は洋式トイレ、シャワー、更衣室。

- ・施設の保守点検管理を包括委託する。香川県まんのう町、千葉県流山市、我孫子市。